

街づくりの将来目標

1. 地区の将来像

地区の将来像は、これからの街づくりにおいて皆でともに目指していく将来の地区の姿です。

現在及び将来の住民が健全で豊かに暮らし続け、また様々な活動を営み続けられるよう、皆で共有する概ね 10 年後のビジョンを定めます。

にぎわう商店街、オアシス碑文谷公園、閑静な住宅地の
広がり、生活を大切にする 安全・安心なまち

学芸大学駅周辺地区は、交通の便に優れた成熟した街であり、4本の幹線道路で囲まれた地区内には歩いて暮らせる街の要素があります。

新旧の融合を図り世代交代を繰り返しながら、お年寄りから子どもまで多様な世代が住み続けたいと思う街の形成を目指すためには、皆が、地区の資源の大切さに気付き、今ある資源を守り、活かすとともに、問題を解決し、新たな魅力を創造していく街づくりが必要です。

そこで、学芸大学駅周辺地区の街づくりは、“生活を大切にする”ことを念頭に、

『一、 駅周辺の「にぎわう商店街」』

『二、 多くの人々が魅力を感じる「みどりの拠点としての碑文谷公園」』

『三、 若者も高齢者も住みたいと感じるみどり豊かな「閑静な住宅地の広がり」』

これらの資源が融合し、交通事故もなく、災害に強く犯罪のない“安全・安心なまち”の姿を、目指すべき地区の将来像として掲げます。

2. 街づくりの目標

街づくりの目標は、地区の将来像を実現するための目標です。
地区の現況や課題等を踏まえ、街づくりの目標を設定します。

特徴ある地域の拠点や軸のある街づくり

多くの人々が集まり、活動や産業、生活や交流などの中心的な役割を担う「拠点」、多くの人々が行き来する、道路と道路沿道の建物を含む連続した都市空間の「軸」のある街づくりを進めます。

安全・安心・快適な歩行者優先の街づくり

歩行者にとってバリアーとなる放置自転車対策をはじめ、歩車共存道路の確保や通過交通、違法駐車の前除などを進め、安全・安心・快適な歩行者空間のある街づくりを進めます。

自転車と共存できる街づくり

自転車利用のルール化や短時間駐輪場の確保などにより利便性の向上を図り、歩行者と自転車が共存できる街づくりを進めます。

まちの玄関口（駅前空間）が魅力的な街づくり

街のシンボル空間として、人が集える広場の確保や景観形成を進め、多くの人が利用する駅前空間が魅力的な街づくりを進めます。

地域生活を支える商店街が活気づく街づくり

商店街の親しみある街並みづくりや商品のはみ出し等の排除など、人が集まる空間づくりなどを進め、人々の生活を支える多彩な機能が集積し、そこを訪れる人々で商店街が賑わい活気づく街づくりを進めます。

碑文谷公園の魅力を活かしたみどり豊かな街づくり

「みどりの拠点」として碑文谷公園の魅力の向上を図るとともに、碑文谷公園や公園周辺の潤いある自然環境を守り活かし広げる街づくりを進めます。

また、碑文谷公園周辺低層住宅地内のみどりの保全や駅周辺の住宅地、商店街の緑化を推進し、碑文谷公園を核に多様なみどりがつながる環境に優しい街づくりを進めます。

安心して暮らし続けることのできる街づくり

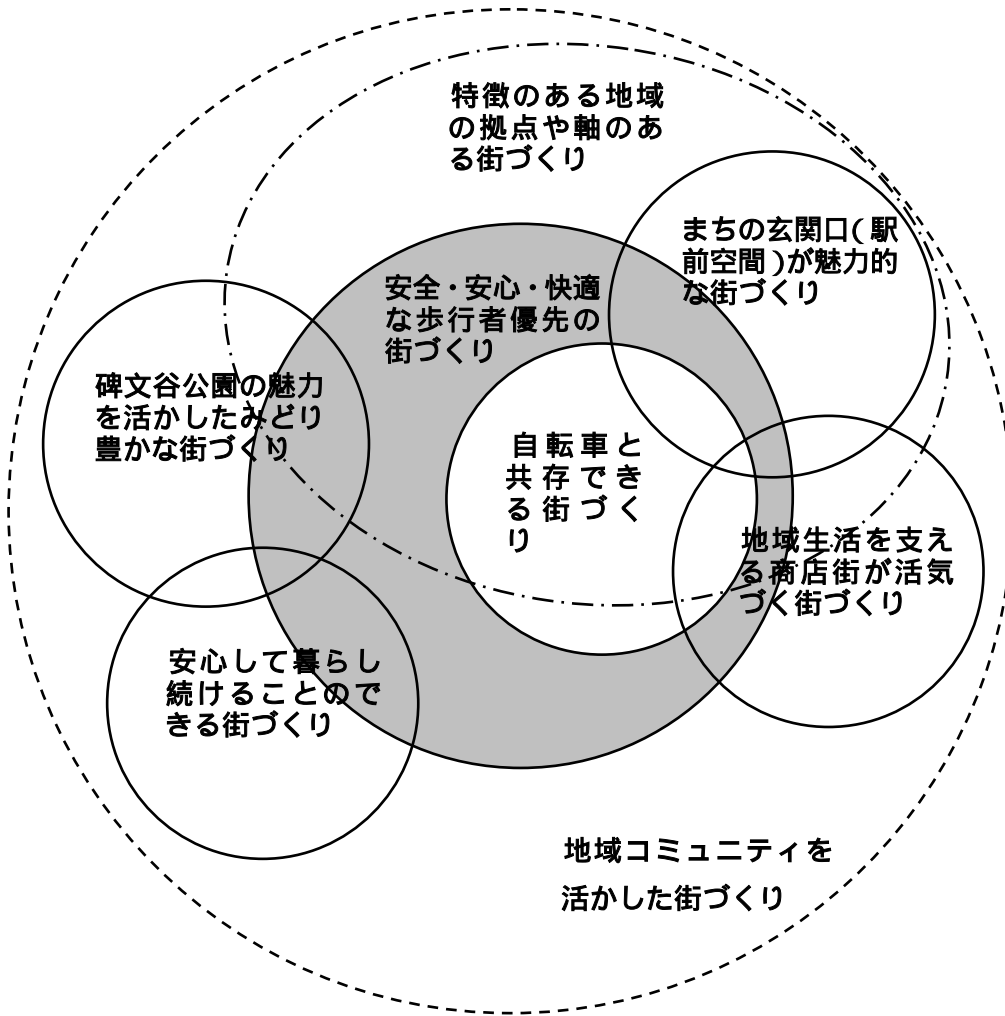
住宅地の街並み環境や居住環境の保全を図るとともに、建物の耐火・耐震化や安全な避難路の確立などにより、大地震などの自然災害や都市災害などに負けない街づくりを進めます。

また、死角や暗い路地の改善により犯罪の起きない街づくりを進め、子どもも高齢者も誰もが安心して暮らせる街づくりを進めます。

地域コミュニティを活かした街づくり（ ）：他の目標すべてに関係する目標

地域コミュニティを活かし、誰もが安全で安心して暮らし続けることのできる街づくりを進めます。

これらの個々の目標は、下図に示すように互いに重なり、繋がる目標です。
重なりが大きな部分は、地区の将来像の実現にとって大きな意味を有しています。



3. 地区の将来構造







地区の将来構造は、目指すべき地区の基本的な骨格を空間的に捉え、図面上に分かりやすく描くものです。

学芸大学駅周辺地区の基本的な骨格は、地区の将来像や街づくりの目標を具体化した、「拠点や軸」、「道路」、「土地利用」の3つの要素で表現します。








【拠点や軸】

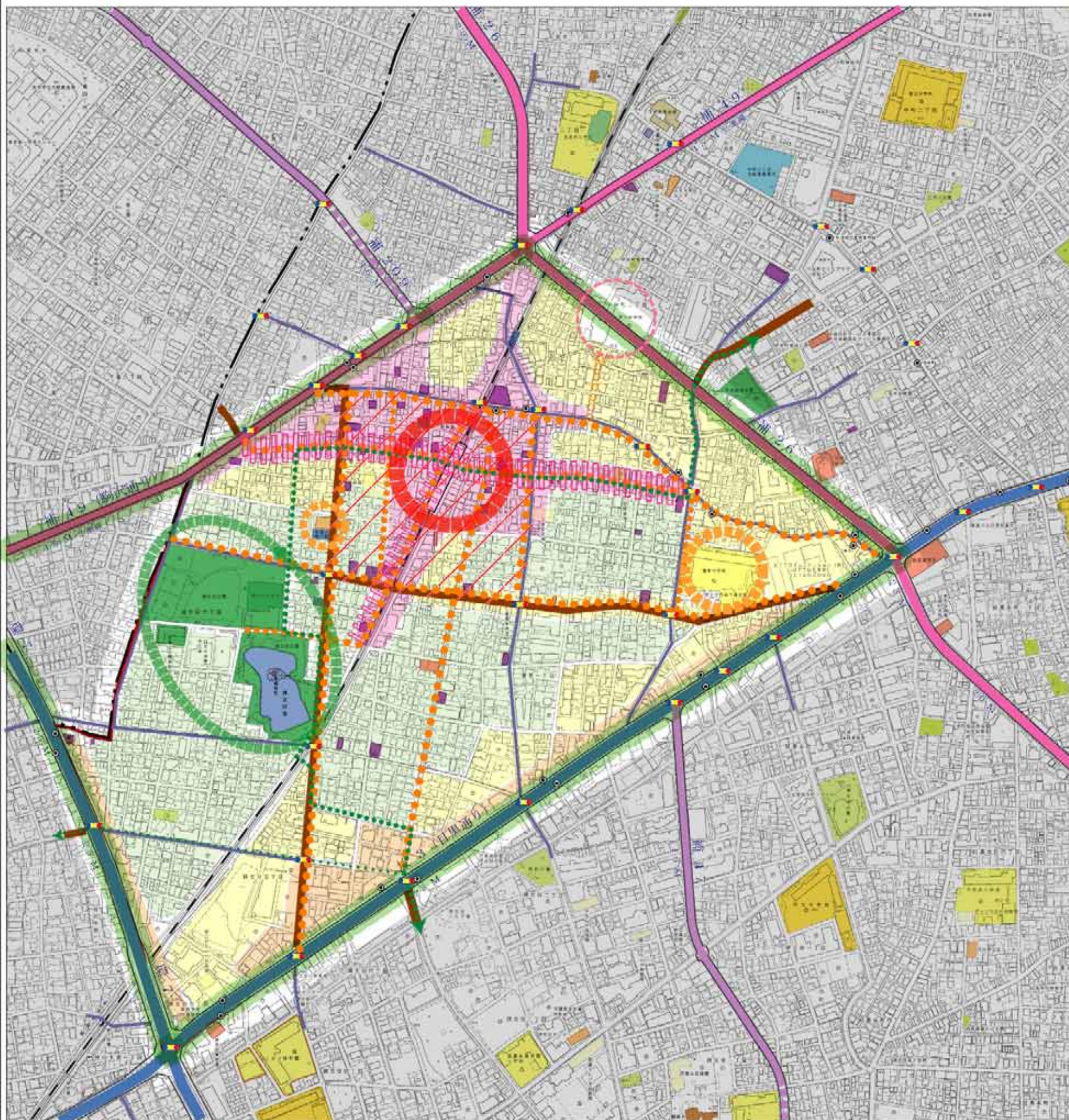
-  **交流拠点**
多くの人々が集まり、交通結節機能をはじめ商業・業務機能など、多様な機能が集積する、人々の活動や暮らしを支える場所
-  **地域コミュニティ拠点**
住区センターや小学校が立地し、地区住民のコミュニティを支える場所
-  **みどりの拠点**
近隣住民の憩い、交流、スポーツ機能を担うとともに、都市の潤いや防災拠点ともなる場所
-  **交流軸**
多くの人々が安全・安心に往来できる歩行者ルートと沿道商業・業務機能などが連続する交流空間。駅周辺の回遊の軸となる空間
-  **みどりの軸**
都市計画マスタープランで位置づけられた、道路や沿道の充実したみどりが連続する空間

【道路】

-  **主要歩行者ルート**
交流拠点周辺をはじめ、みどりの拠点や学校前など、歩行者が安全・安心・快適に歩ける主要な歩行者ルート
-  **みどりの散歩道**
拠点や近隣の公園などを結ぶ散策を楽しむことができる道
-  **主要幹線道路**
主に広域的自動車交通を処理し、都市の骨格を形成する道路（大震災時の避難路）
-  **幹線道路**
主に自動車交通を円滑に処理し、都市の骨格を形成する道路（大震災時の避難路）
-  **主要生活道路**
通過交通を排除し、居住環境区域内の交通を外周道路に集散する主要な生活道路（地区内の防災機能の主軸）
-  **主要区画道路**
主要生活道路を補完する道路（平常時の消防活動の場）

【土地利用】

-  **商業・業務地**
多種類の商業・業務機能が立地する商業・業務地
-  **低層住宅地**
低層の住宅を主体として緑の多い良好な環境が広がる住宅地
-  **一般住宅地**
住宅を主体として良好な環境が広がる住宅地
-  **沿道複合地**
住宅・商業・業務など、沿道の利便性を活かした沿道複合地
-  **歩行者優先ゾーン**
-  **まちづくりに資する拠点**  **歩行者動線**



4本の幹線道路で囲まれた「居住環境区域」が形成され、安全で安心して生活や様々な営みを続けられる将来の街。

- 地区内に無関係な交通が入らず歩行者が安心して往来できる交通環境が整う街。
- 学芸大学駅をはじめとする街の魅力ある拠点や軸のある街。
- 学芸大学駅を中心に商店街が形成され、その周りに、良好な環境を持つ住宅地が広がる街。
- 神文谷公園を拠点に、みどりが繋がりが広がるみどり豊かな街。

※ 居住環境区域
地区内に無関係な通過交通を排除することが可能な区域のこと

その他 凡例

	対象区域		保健医療施設
	公園 児童遊園		図書館・教育館
	都市計画公園		寺社
	幼稚園・保育園		駐車場
	小学校		自転車乗降所
	中学校		商店街
	高等学校		バス停
	住区センター		信号交差点
	公共施設		都市計画道路
	運動施設		行政区界
			町界
			町丁界(町名内)

